

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東棟)

事業所番号	0692300080		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホーム大江		
所在地	山形県西村山郡大江町大字左沢536番地—1		
自己評価作成日	平成28年 11月 15日	開設年月日	平成28年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム大江は『おだやかに、落ち着いた生活を、笑顔で送る』を合言葉に職員一同で取り組んでいます。大江町は四季の変化に富み、恵まれた自然環境にあります。環境を活かしながら外出や地域の行事にも出来るだけ参加させていただき、慣れ親しんだ地域で過ごしてもらえるよう支援しています。また、事業所は町の中心地にあり、町の商店街も近隣にあるなど入居者の方の馴染みの方々が気軽に立ち寄れる施設となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の東側は通学路に面し、北側と南側は住宅街で、西側には桜の木が植樹され遠方に山が望まれる大江町中心部に立地しています。自立の利用者が多く明るい環境の中で、生き生きとした生活が見られ、東ユニットは個性豊かで話好き、笑いが多く社交性があり、西ユニットは静かに穏やかな様子で過ごしています。職員は利用者の一人ひとりに、いつも笑顔で対話と聞き役に徹し安心して暮らせるように、またその方らしい生活が送れるようにと、寄り添うケアを大事にしている事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 12月 14日	評価結果決定日	平成 29年 1月 4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念に基づき事業所内で理念を作成し、それらを職員に周知意識づけ、日々の業務や支援に反映できるようにしている	理念は、職員の話し合いでグループホーム大江のお・お・えから「おだやかに、おちついた生活を、えがおで送る」をつくり、事務所に掲示し出勤時に確認している。利用者の明るい表情や笑顔が得られるように支援し、また絶えないように実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5月に地区の廃品回収・9月に地区の清掃に参加し、地区の一員として交流をはかっている。また地区の行事やお祭りなどにも積極的に参加したり、利用者の方と一緒に見学に行ったりなど利用者の方と地域とのつながりが継続できるよう努めている。	利用者は職員と共に、近くの小学校の相撲大会に出掛け子供たちと一緒に応援しながら楽しい交流を行っている。地域にAED講習を呼びかけ、多くの参加者から大変有意義であったと好評を得て、次回の開催が期待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族やご友人、近隣の方の面会の際に事業所の雰囲気や、職員の関わりや支援、利用者の方同士の交流など知っていただくようにしている。また行事などでご家族の方と利用者の方が交流された際にも、利用者の方との理解や支援についてご説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に1回、市町村職員、地区会長、児童民生委員・ご家族様に運営推進会議に参加していただいている。その中で入退所状況・事業所での業務・事故の発生状況、その他運営についての質問やご意見をいただきサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町担当者・民生委員・区長・老人クラブ会長・家族代表の構成で実施しており、食事や避難訓練等についても意見をもらい今後に活かしている。会議結果は、閲覧の上各自押印するなど職員への周知を徹底している。	運営推進会議に利用者が入っていないため、ユニット毎から利用者代表として参加メンバーに組み入れることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開設からまもない為、市町村の担当者と随時、連携を密に取り、運営面・諸手続きなど担当者にお問い合わせを行い相談するなどして適切な回答をいただいている	地域ケア会議は、同業施設の方々の参加で2ヶ月に1回開催されている。町担当者には常に情報提供して指導助言をもらうなど、連携を密にして共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については法人内の研修の他に事業所での勉強を行い職員間に周知・徹底を行っている。離脱の危険性のある方については玄関に鍵を掛けるなどのことはなく、職員同士での意識づけや声かけを行い、離脱のないよう所在の確認を行うなどして統一した支援を行っている。</p>	<p>県主催の高齢者虐待防止研修会に参加して、職員会議に反映させ虐待防止の読み合わせを行っている。また、接遇については2回に分けて研修を行い、身体拘束廃止委員会を設け、検討した内容を全員が周知している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人での研修の他に、今後、外部研修があった際は、積極的に参加し、利用者の方の人権の尊重・権利擁護に努めたい。また利用者の方の状態もそれぞれ異なるので対応や支援については職員間で情報を共有するなどして虐待の防止に努める。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>親族が遠隔地にお住まいの利用者の方はいるが、現在、様々な制度など利用されている方はいない。しかし今後、制度を利用される方の入居も考えられるため、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習して活用できるようにしていきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約については不安に感じる方も多いため、十分な時間を用いて疑問や不安を少しでも解消できるよう分かりやすい言葉で説明を行ない疑問や質問があればすぐお答えして納得していただくようにしている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>随時、電話での受け付けの他、面会時にご家族の方とお話して、意見や要望があればお聞きしている。また、芋煮会など定期的にご家族・利用者の方を交えて行事が開催されるので、その際にもご意見をいただき、それらを運営に反映している。</p>	<p>利用者からの意向は普段の生活と会話の中から聴取を行い、また意見箱を設置している。家族等との面会時や電話での聞き取りもしており、意見・要望等について事業所運営に反映している。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的な面談の他に、週1回の職員会議の際に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。またそれらの意見は法人のブロック会議にて上司を通して代表者へ届けてもらっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々の勤務状況、勤務態度、能力に応じて給与・賞与の考査を法人内にて行っている。また、業務を行う上で職員がモチベーションを保てるよう資格取得の周知、サポートを行い、向上心を持って業務にあたるよう職場環境の整備に努めている。</p>			
13	(7)	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に法人内の研修に参加する機会を設けたり、自主的に学習できるよう外部研修の通知を行っている。また職場内において勉強会やスーパービジョンによる指導を行い職員の資質・技術の向上を図っている。</p>	<p>年2回法人内と毎月内部の研修を行っている。外部では感染症対策に参加し、内部研修を通して周知している。事故防止については、ヒヤリハット等の例題を出して検討し協議を行い共に育ち合えるよう学んでいる。</p>		
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>7月に実践者研修、8月に管理者研修の際に同業者との交流をしている。また大江町の地域ケア会議に参加し、町内の施設の事業者と意見を交換している。今後、大江町認知症カフェに訪問するなどネットワーク作りを行い、事業所のサービスの向上を図りたい。</p>	<p>管理者は実践者研修や管理者研修とケアマネジャー研修を受けて、職員への教育指導に努めている。法人内の2事業所へ職員の研修派遣や事故防止対策・感染症対策の委員会へも参加させ、意見や情報交換を重ねて質の向上に役立てている。</p>		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込み時に本人様、ご家族様や他事業所に面談などにより状況を伺い、入居の際の不安や要望をお聞きして、入居についての不安を少しでも減らせるよう努めている</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込みの際に、ご家族様の困っている事や不安、悩み事、抱えてる様々な思いをお伺いし、受け止め理解して、どのような支援をしていく事が良いのか共に考えて関係づくりに努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人様とご家族が、その時何を必要としているか、どのような支援が最適かを見極め、必要と感じた時は他のサービス利用を含めた情報提供が出来るような体制を整えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方1人1人の出来ることを見極め、その能力に応じた活動や作業、お手伝いを一緒に行い、職員や他の利用者の方と共に生活や時間を共有するという関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の絆や関係性を大切にして、ご家族様が手伝ってくださることや面会など、ご本人様を共に支え、何が最適な支援かを共に考えていける関係性を築けるように努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様、ご家族様と相談しながら、施設での出来る限りの対応や面会や外出などの協力などご家族様の対応を両立させて、地域や馴染みの人、場所との関係が途切れないように努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の方1人1人の性格を理解し、ご利用者の方同士が関わって生活ができるよう、必要に応じて職員が間に入るなどして支えあえるように対応している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	4月の開設後から退去者はいないが、今後はそのようなフォローも必要になることから対策を考えていきたい。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活からご利用者の方との関わりを大切にしてい、傾聴を行い、ご本人様の思いや意向に寄り添った支援が出来るように努めている。	利用者一人ひとりとのコミュニケーションから意見・意向や気づきを記録して今後に活かしている。また、家族の希望や要望等を申し送りノートに記入し、内容を確認後に押印して共有を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に、ご本人様やご家族様や事業所、施設の職員より生活歴や趣味などをお聞きして、利用者の方の把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご利用者の方との関わりや日常の様子観察からご利用者の方の変化や出来事を記録し、申し送りを行い情報を共有したり、ケース会議にて現状の把握をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングやケース会議で利用者の方の現状や課題について話し合いを行っている。介護計画作成するにあたり、それらの意見を反映して、利用者の方の現状に即したものとしている	毎月のモニタリングやケース会議は、全職員参加で行っている。利用者は今の状態を望んでいるかなど把握に努め、家族等の意見や希望を取り入れ介護計画を作成し確認と同意を得ている。見直しは半年を目途に、状態変化時はその都度見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や気づきを記録や申し送り、ケース会議で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しをしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や施設以外の関わりに加え、近隣のお店に買い物に行ったり、地域の事業やイベントにも職員と共に参加するなど、地域で安全で豊かな生活が送れるよう支援している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人様の希望に合わせてかかりつけ医への受診を支援しており、その際の情報提供を行っている。またご都合にあわせて職員が受診にお連れしている。	かかりつけ医受診は、家族等付き添いを基本としているが事業所対応希望者には、職員がケア記録を持ち付き添っている。結果は記録に残し、家族へ電話連絡し共有している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、利用者の方の健康面・精神面を観察している。必要時、かかりつけ医への連絡・相談を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が入院した場合、医療機関の地域相談室と情報交換・共有や状態の把握を行ない、退院に向けた調整を行っている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の説明をし、同意を得ています。ご本人様、ご家族様の希望があれば医師・訪問看護師と連携し、看取りを実践している。	入居時の説明で理解してもらい、状態の変化に伴いその都度現状と今後の方針を話し合っている。医師・訪問看護師・事業所看護師、家族等との連携で看取りを行った経緯もあり、今後とも支援に向け研鑽を積み実践に結び付けるよう学びを深めている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備えて消防署よりBLSやAED訓練を行っております。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・通報・消火訓練を年2回以上(うち消防署立ち合いを1回)行っている。これからは地域の方々の協力体制を整えつつ、停電、水害対策時の備蓄の準備を進めている。	年2回の避難訓練を実施している。開設して日が浅いため細部の災害計画は構築中である。備蓄等は飲料水、パックご飯等を確保している。	消防団や近隣の方々の協力を得た災害訓練計画を策定することを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方1人1人をしっかりと理解した上で、人格を尊重し、プライバシーを損ねないように利用者の方に合わせた声かけや関わりなどの対応を行っている。	利用者のこれまでの歩みを職員で共有し、先輩として尊敬の念を持ち向き合い、名前で呼ぶようにしている。言葉遣い等接遇研修を行い利用者同志も名前で呼びあっている。会話の中で知り得た事は、申し送りノートに書きケース会議等で共有している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が自らの思いを表現しやす状況作りに努め、意思の確認や、表情、答えやすい声かけなどその思いに沿った支援が出来るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方のニーズはもとより、その方の一日の生活を把握して、その方がどのように過ごしていきたいかを理解して、その方の現状に合わせた対応をしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望に添って、馴染みの美容室に出かけたり、手持ちの化粧品がなくなった際に買い物に行くなど支援している。また定期的な訪問理容あり。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方のADLや意欲に合わせて食事の盛り付けや食器を片付け、食器拭きなど行い、食事の一連の流れを皆で行い、食事の楽しみの一つとしている。	ご飯とみそ汁は事業所で調理し、おかずは配食サービスを受けている。各自の状態によって、きざみ食にしたりとろみを付けるなどの工夫をしながらしっかりと食事を取っている。回転寿司に出かけて外食をしたり、行事食は職員が作り、また、おやつ作りをして出来る手伝いをしてもらいながら皆で楽しんでいる。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立を1人1人の体調や摂取状況に合わせて刻みやカットを行い提供している。水分補給に関してはトロミやゼリーを用い、水分を摂取しやすいよう工夫している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方については声かけにて口腔ケア促している。支援が必要な方には、毎食後に口腔内を清潔に保てるよう支援をしている。また希望者には歯科往診にて対応している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の方のADLに合わせた支援を行っている。訴えの少ない方についても観察や排泄パターンを把握して随時、トイレに誘導したり、保清や交換を行っている。	トイレで排泄する事を重視した介助を行っている。殆どの方が自立の方で自己申告してもらいパターンを把握している。さりげない言葉掛けで羞恥心に配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医の処方の下剤の他に、食形態の工夫や水分の摂取を行い、定期的に運動を行うなどして便秘の予防に取り組んでいる。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や時間など考慮に入れて、一人一人の希望に合わせて入浴を促している。車イスの方でも浴槽に入れるようにリフト浴にて対応している。	週2回を目安にして体調に合わせ、1対1の介助をしている。リフト浴も準備しているが、今のところ利用していない。拒否のある方もいるが、無理強いしないで機会を捉え入ってもらい、気持ち良く過ごしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅からご持参された寝具や寝間着など用意して快適に安眠できるようにしている。また照明や空調にも配慮している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設内の職員・看護師が内服される薬の内容を理解して、医師・病院・薬剤師の指導のもとで内服の準備や声かけを行っている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の生活歴や趣味、本人様のADLに配慮して、日常の生活の中で楽しみを見つけられるよう取り組みをしたり、他利用者の方との交流も行う気分転換を図っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の方の体調を把握して外出をしたり、地域の行事にも見学に行かれている。また、ご本人様・ご家族様と相談して外出や外泊できるように支援している。	地域行事の見学や、ドライブに出かけアイスクリームを食べ楽しんでいる。また、家族等の協力で外泊も出来るよう支援している。冬期間はレクリエーションの充実で外出に変えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の方の希望に応じてお部屋での自己管理や手元におかれ、買い物の際に使用されたりしている。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>随時、連絡は行えるよう支援しており、ご家族の方に電話での近況をお伝えされたり、要望をお伝えされている。また手紙などの投函も行っている。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に共有の空間が利用者の方にとって快適であるように清掃を毎日行い、危険がないように整理整頓を行っている。また空調や換気も定期的に行っている。また食堂のスペースには季節の飾りを行うなど、季節感を持って生活していただくように工夫している。</p>	<p>ホールには四季折々の飾りつけや、お気に入りのポーズで納まった写真を飾り、日中のほとんどを過ごしている。利用者の意向に合わせソファを配置し居心地の良い場所として利用され、居室は職員の目が届く間取りになっており、夜間の安心に繋がっている。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>個室での対応となっていて、鍵もかかるなどプライバシーには配慮している。また個人や仲の良い利用者の方同士で過ごせるスペースなど共有空間に用意している。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自宅で使用されていたものを持参していただき、居室に置いたり、飾ったりなどご自宅に近づけるような居心地の良い空間をご用意できるようにしている。</p>	<p>寝具や馴染んだものを持参してもらい利用者の状態に合わせた家具の配置をして、使いやすいよう設えている。人感センサーやナースコールの利用もあり、安心安全への配慮をしている。毎日朝食後、職員と一緒に掃除をして落ち着いた暮らしが出来ている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご本人様のADLに合わせて、安全に過ごせるよう、手すりやバリアフリーを完備している。またできる事を活かせるよう支援の際は利用者の方のできる事を配慮して工夫して行っている。</p>			